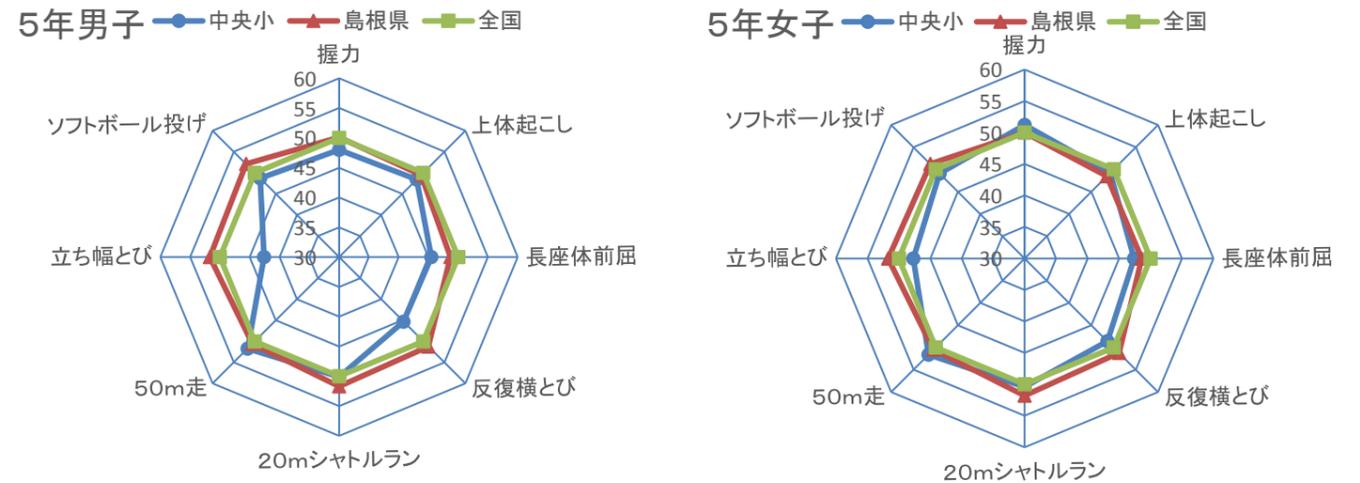


(1)児童の体力の現状

○握力、上体おこし、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走は、上学年にいくほど、県の平均値との差が縮まっていく傾向が見られる。
○6年生女子が、立ち幅跳び、ソフトボール投げ以外では県の平均値を上回っている。特に、上体おこし、長座体前屈、20mシャトルランについては、それぞれ2p以上高い。

- 6年生女子を除いて、ほぼ全ての学年と種目で県の平均値を上回ることができていない。
- 例年、高学年になるにつれて男女とも県の平均値を上回ってきたが、男子は50m走のみ上回っている。
- 男女ともに全学年で、立ち幅とびが県の平均値との差が大きい。
- 近年、1年生の平均値が県の平均値を大きく下回る傾向が続いている。

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



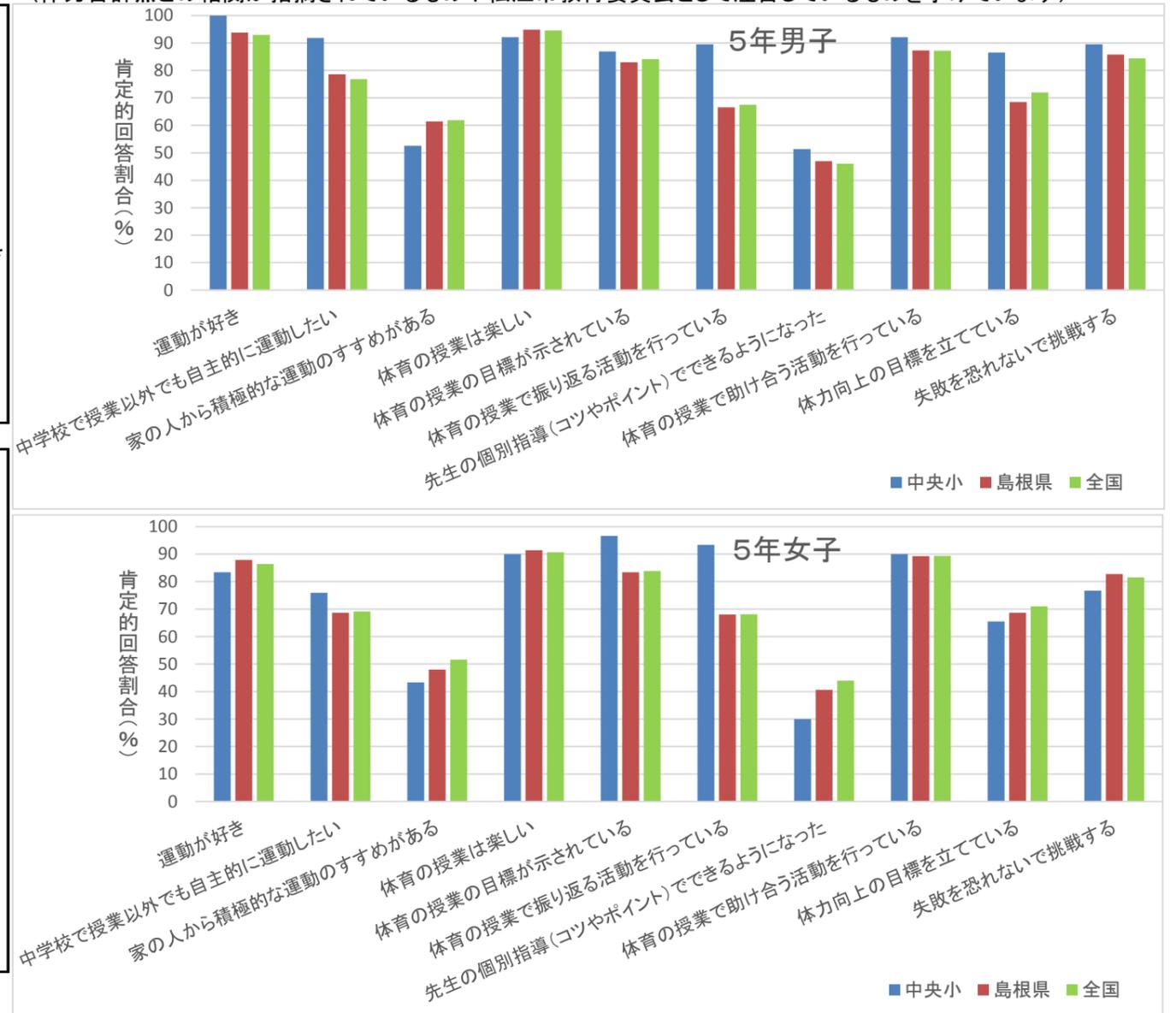
(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

○中央っ子サーキット…年度初めに、中央っ子スタイルの体育授業づくりに関する共通理解を図り、サーキットもビデオを使った研修を行ったため、年度当初から4年生以下の全学級で継続的に実施できた。
○中央っ子エクササイズ…今年度から取り組んだエクササイズは、カリキュラムに組み込んだことで毎日続けることができた。掃除が終わって5時間目が始まる前の5分間に設定していたため、スムーズに授業に入ることができるという効果も見られた。
○意識調査の中から昨年度から大きく伸びた項目は、体育授業の目標の提示とふりかえりである。体育の授業づくり研修の成果の一つと考える。

- チャレンジカード…前年度より全校でのチャレンジタイムの回数を減らしたが、4年生以下の体育の年間指導計画の中に、体づくり運動としてチャレンジカードを位置付けたことで、春先に集中的に取り組むことができた。半面、年間を通した取組については、各学級による取り組み状況の差が大きかった。下学年のチャレンジカードの名人達成率を見てみると、45%で目標の50%を達成することができなかった。
- 本校児童の新学期体力テストの結果から、学年が上がるにつれて向上している傾向はあるが、県の平均値と比べると非常に低い。

(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(3)31年度の取組【対策】

①学校における取組

- ・これまで取り組んできた「チャレンジカード」「中央っ子サーキット」「ちゅオリンピック」「中央っ子エクササイズ」は引き続き取り組んでいくが、サーキットについては児童の課題(特に立ち幅跳び)を踏まえて改善が必要である。
- ・年度当初と夏季休業中に、体づくりに関する研修会を実施し、体育の授業づくりや日常の取り組みに関する共通理解を図ったり、体づくりに関する環境整備を行ったりする。

②地域や家庭との連携による取組

- ・体づくりだよりを発行し、HPにも掲載することで、保護者や地域への啓発を行う。
- ・運動会を体づくりの成果発表の場とすることで、保護者や地域への啓発の場とする。
- ・学校保健委員会の中で、地域・家庭・学校が本校児童の生活や運動習慣についての実態や課題を共有し、意見交換をする。

③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組

- ・メディアコントロール週間を計画的に実施し、生活チェックシートを使用して家庭と連携しながら生活や運動習慣の意識付けや改善を図る。
- ・食の学習ノートを効果的に使い、学校給食センターとも連携し食育を推進する。

調査実施者数(人) 1年(男子33・女子23) 2年(男子29・女子21) 3年(男子26・女子33)
4年(男子27・女子29) 5年(男子39・女子29) 6年(男子31・女子29)